

2012年4～6月の鉱工業生産動向から

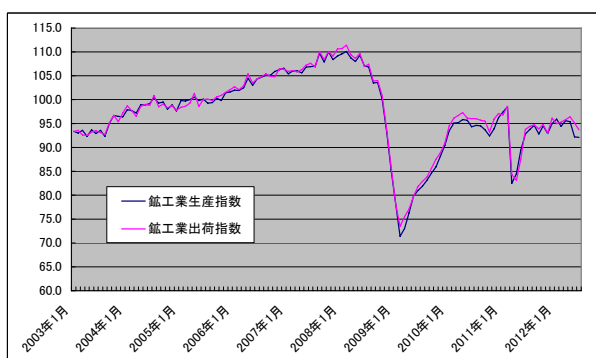
7月30日、経済産業省が鉱工業生産指数（2005年＝100、季節調整値）を発表したので、その概略を紹介する。

1. 鉱工業生産、出荷、在庫の動向

鉱工業生産指数は、6月が前月比▲0.1%の92.1となり、3ヵ月連続して低下した。四半期別に見ると、2012年4～6月期は、前期比▲2.2%の93.2となり、4期ぶりに低下に転じた。昨年、東日本大震災以来の低下であった。

業種別に四半期の動向を見ると、16業種のうち、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業、輸送機械工業など12業種が前期比低下した。

図1: 鉱工業生産・出荷指数の推移



出所: 鉱工業指数(経済産業省)

出荷指数は、6月が前月比▲1.5%の93.7となり、2ヵ月連続して低下した。四半期別に見ると、2012年4～6月期は、前期比▲0.3%の95.1となり、同じく4期ぶりに低下に転じた。

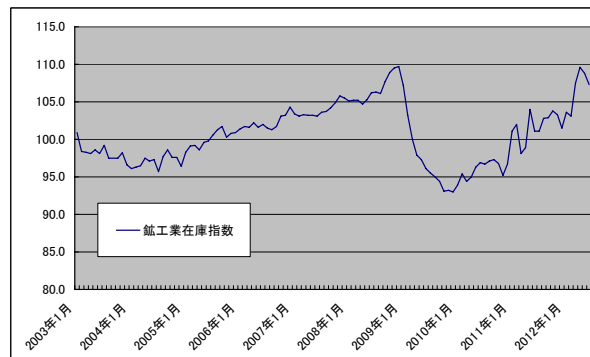
業種別に四半期の動向を見ると、16業種のうち、情報通信機械工業、電子部品・デバイス工業など9業種が前期比低下した。

在庫指数は、6月が前月比▲1.4%の107.3となり、2ヵ月連続して低下した。四半期別に見ると、2012年4～6月期は、前期比▲0.2%の107.3となり、2期ぶりに低下に転じた。

業種別に四半期の動向を見ると、16業種のうち、

輸送機械工業、電気機械工業、鉄鋼業など6業種が前期比低下した。

図2: 鉱工業在庫指数の推移



出所: 鉱工業指数(経済産業省)

2. 製造工業生産予測調査

今回の低下は、アジアなど海外経済の減速から輸出向けの自動車や自動車部品の生産が落ち込んだことが主な要因である。

経済産業省は、基調判断を「持ち直しの動きで推移している」から「横ばい傾向にある」と6ヵ月ぶりに下方修正した。一方、予測調査によると、7月は前月比4.5%の上昇、8月は0.6%の低下と予想しており、7～9月期では2期ぶりに上昇に転じる見込み。生産は上向き予測であるが、海外の減速感が強まる中、今後の動向に注目したい。

表 鉱工業生産、出荷、在庫 (％)

		11年Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期	12年Ⅰ期	Ⅱ期
生産	前期比	▲4.2	5.4	0.4	1.3	▲2.2
	前年同期比	▲5.8	▲0.9	▲1.6	4.8	5.1
出荷	前期比	▲5.5	7.0	0.3	0.8	▲0.3
	前年同期比	▲8.3	▲1.6	▲2.2	4.1	7.9
在庫	前期比	3.1	1.8	▲1.4	5.9	▲0.2
	前年同期比	4.6	6.0	3.8	9.6	6.1

【予測調査】

		12年4月	5月	6月	7月	8月
生産	前月比	▲0.2	▲3.4	▲0.1	4.5	▲0.6
	前年同月比	12.9	6.0	▲2.0		
出荷	前月比	0.6	▲1.3	▲1.5		
	前年同月比	16.0	11.7	▲1.6		
在庫	前月比	2.0	▲0.7	▲1.4		
	前年同月比	10.8	4.7	6.1		

出所: 鉱工業指数(経済産業省)

(調査グループ 関谷裕介)